

文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel 0776-82-1141 Fax 0776-82-2261  
【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F  
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp  
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

# ほっとらいん VOL.57

県議会に風穴をあける男たち



人に、まちに、いま、  
元気の種をまこう。

「松陰先生のことば」 朗唱文  
《一学期》

(一年) 今日よりぞ 幼心を打ち捨てて 人と成りにし  
道を踏みめかし  
(今までは、親にすがり甘えていたが、小学生となった今日からは、自分のことは自分でし、友だちと仲よくしよう。)

(二年) 万巻の書を読むに あらざるよりは いずくんぞ  
千秋の人たるをえん  
(多くの本を読み、勉強しなければ、どうして名を残すような立派な人間になることができようか、しっかりと勉強なさい。)

(三年) 凡そ生まれて人ならば 宜しく人の禽獣に異なる  
所以を知るべし  
(人間として生まれてきた以上は、動物とは違うところがなければならぬ。道徳が行なわれなければ、人間とは言われない。)

(四年) 凡そ読書の功は昼夜を捨てず 寸陰を惜しみて是れを励む  
にあらざれば 其の功を見ることなし  
(読書の効果をあげようと思えば、昼と夜の区別なく、わずかの時間でも惜しんで、一心に読書に励まなければ、その効果はみることができない。)

(五年) 誠は天の道なり 誠を思ふは人の道なり 至誠にして動か  
ざる者は未だ之れあらざるなり 誠ならずして未だ能く動かす者は  
あらざるなり  
(誠というものは人のつくったものではなく、天の自然に存する所の道である。この誠というものに心づいて、これに達しよう、これを得ようと思つのは即ち人の人たる道である。学んでこれを知り、つとめてこれを行うのは人たるもの道である。このように、誠の至極せる心に会つては、何者も感動されないものではない。誠というものはすべての元になるものである。)

(六年) 体は私なり 心は公なり 私を役して公に殉ずる者を大人  
と爲し 公を役にして私に殉ずる者を小人と爲す  
(人間は精神(心)と肉体の二つを備えている。そして、心は肉体よりも神(天性)に近いが、肉体は動物に近い(自己本位)。ここでは、精神を公とよんで主人とし、肉体を私とよび、従者とする。すなわち、人間は公私両面を備えている。なお、精神を尊重するのは、良心を備えているからである。主人たる心のために従者たる肉体を役役するのは当然のことである(君子)の爲すところ。これに反し、従者たる肉体のために、主人たる精神を役役するのは小人(徳のない人)の爲すところ。肉体(私)を役役して、徳を修め、道を行うことに心がける者は大人、反対に、道心、天理(公)を犠牲にして肉体(私)の欲望を満足する事を目的とするものは小人。)



「松陰先生のことば」一年生の朗唱風景

山口県萩市立  
明倫小学校では、  
毎朝、松陰先生  
のことば、吉田  
松陰が残した言葉  
から選ばれたも  
の(を)、児童たち  
が朗唱していま  
す。  
言葉は多学年で  
異なり、学期ごとに変わりま

す。重要なポジションを占めて  
いるとすれば、やはり恐ろしい  
ことです。  
「勉強は将来社会の一員とし  
て貢献できる人間になるために  
やるんだ。だからいま、しっか  
り勉強しなさい」  
そんな勉強の崇高な志を、  
子供に説くことができる教育が  
求められていると思います。

志とは、どんなに邪魔が  
入っても、打ちのめされても、  
孤立しても、それでも貫かね  
ばなりません。そのためには、  
たとえ「狂」の謗りを受けても  
構わないというのが松陰の教  
えです。狂は崇高な境地です。  
勝敗を超えて奮闘するもの  
が現れ、人々の魂を揺さぶつ  
た時、常識では開くはずがな  
い、重い時代の扉が開く瞬間  
があります。幕末という激動  
に身を投じた変革者たちの多  
くは、その瞬間をひたすら信  
じ、自らを犠牲にして散華し  
ていったのです。

松陰は、人生において最も基本  
となる大切なものは、志を立て  
ることだと日頃から門下生たち  
に説いていました。  
私利私欲を除いた心で、一体自  
分がこの世で何ができるのか、何  
をすべきなのかを真剣に考える  
これが志を立てることなのです。  
志と目標は違います。志を持た  
ず、大金や地位だけを目標にし  
て励む者が多いと、社会はおか  
しくなります。

「なぜ勉強しなけ  
ればならないのか」  
利己主義を胸に、  
受験勉強を戦い抜  
いた子供が大人と  
なり、「勝ち組」と  
して現代社会にお

わすか二室十八畳半の小屋に  
「近所の少年たちが集まったに  
すぎない松下村塾で、わずか二  
年ほど松陰から教えを受けた中  
で、幕末から明治にかけての日  
本をリードした人材が続々と輩  
出されました。  
松陰という若き一人の指導者  
のもとから、多数の「人材」が  
排出されたのを見ると、人材が  
いないのではなく、優れた指導  
者が一人いれば、人材は育つと  
いうことがわかります。

「なぜ勉強しなけ  
ればならないのか」  
利己主義を胸に、  
受験勉強を戦い抜  
いた子供が大人と  
なり、「勝ち組」と  
して現代社会にお

変革を望み、志を胸に時代の  
先端に立ち続ける者たちの言動  
は、必ずしも周囲に  
理解されるわけ  
はありません。  
松陰や門下生も、  
当時は「志士」では  
なく、「乱民」と呼ば  
れ、周囲から白眼視  
されました。

「世に身生きて心死する者  
あり。身亡びて魂存する者あ  
り。心死すれば生くるも益な  
きなり、魂存すれば亡びも損  
なきなり」。  
肉体が亡びても志が残って  
いる松陰の言葉です。



松下村塾

志とは士の本心と書をまもる。

# 「待っている議会」から「提案する議会」へ



## 新春に集う 政策合同研究会

(左から一志会、自民党新政会、県民連合、公明党)

上段：(四谷・西本・藤野・宇野・笹岡・松井・吉田・谷口・鈴木・玉村・麴谷)

下段：(東角・山田・小泉・山本芳・斉藤・田中・屋敷・野田・山本正・石橋)

## 08 新春団結宣言

# 県民のために 闘う県議会 をひらく

昨年、身近な食品から政界、スポーツ選手にまで、次々と「偽」が発覚して、世相をあらわす漢字は「偽」となりました。

景気は、昨夏のアメリカのサブプライム住宅ローンの焦げつきによる世界的な信用収縮に見舞われたものの、日本はいまだに世界第2位の経済大国であり、「いざなぎ景気」所得倍増の勢いがあつた1965年から1970年にかけて57ヶ月続いた好景気を超える戦後最長の景気拡大がいまも継続中といわれています。

ソリンや食料品、公共料金の値上げは、生活を直撃し、生活に必要な基礎的支出の割合が大きい低所得者層に対する影響は大きく、格差の拡大を助長しています。

「バブル崩壊後の「改革」がもたらしたものは、アメリカ主導の市場経済であり、カネにカネを生ませるだけの倫理なき虚構の競争、行き過ぎた拝金主義で、日本の「ものづくり国家」としての強みといわれた日本型雇用制度や、共有していたモラルと倫理が失われつつあります。8年連続で自殺者3万人を越す国家であることも意識しなければなりません。

球温暖化に関する政府間パネル第4次報告書は、このままでは、今世紀中に6.4度の気温上昇を予測しており、人類が破局に向かっていることを明らかにしました。

突き詰めれば、「偽」の文字が大きく押し掛かっているのは、ほかでもなく、すべて「政治」となります。

何のために政治があるのか、政治は今、何をなすべきか、私たち地方議会人に求められるものは何か、今一度確認し合わなければなりません。

2008年が幕開けしました。パラダイムの転換が求められる本年はまさに「看板に偽りなし」の地方自治における二元代表制の意義と議会の役割を強く認識し、知事と政策対峙する本格的な県議会を築かねばなりません。

を打ち破った福井県議会の夜明けの年でした。

それは、3分の2の勢力を誇っていた自民党派の分裂がもたらした僥倖(たふさ)ともいえるものでしたが、私たちは、中央の支持政党の違い以前の問題として、地方議会人としての志、地方議会のあるべき理想を共有できる仲間が重要であり、それこそ県民の期待にこたえ、県民益につなげる地方議会の存在意義、二元代表制の役割であることを認識し、力を合わせて行動していきましょう。

それは、「福井県行政に係る基本的な計画について」議会の議決事件と定める条例、「福井県議会議員の政治倫理に関する条例」の制定、政務調査費の見直し・条例改正、初の政策条例となる「地産地消推進条例」、「森づくり条例」を発議しての調査・啓発行動として具体化しており、私たち政策合同研究会がわずか半年余で打ち立てた金字塔となっています。

使命感や志というのは難しいことではない。自分が為すべきことを為す(城山三郎)。

議会のレベルが上がれば、行政のレベルが上がる。

会員各位が切磋琢磨し、力をあわせ、飛躍していく年とすることを誓い、八風吹けども動ぜず、「ここに政策合同研究会2008年新春団結を宣言する。」

2008年1月10日  
福井県議会政策合同研究会

議会のレベルが上がれば

行政のレベルが上がる

ふりかえれば、幾多の困難や揺さぶり攻撃、かつてない激務に遭遇しつつも、皆で風の中を走りぬけました。それは、長老支配、老害政治、不透明・腐敗政治、行政の一部と化した議会部からの脱却であり、待っている議会から「提案する議会」、県民のために「闘う県議会」への脱皮でした。

私たちの望むものは、より良い、開かれた議会をつくることで、議会本来の役割を果たす二元代表制が機能する県政を築くことでもあります。

2008年は、それを確固とし、福井県議会の黎明期(れいめいき)を築かねばなりません。

「5分が一生涯にまざる」。最大の福井県政改革のチャンスを活かさなければなりません。

使命感や志というのは難しいことではない。自分が為すべきことを為す(城山三郎)。

議会のレベルが上がれば、行政のレベルが上がる。

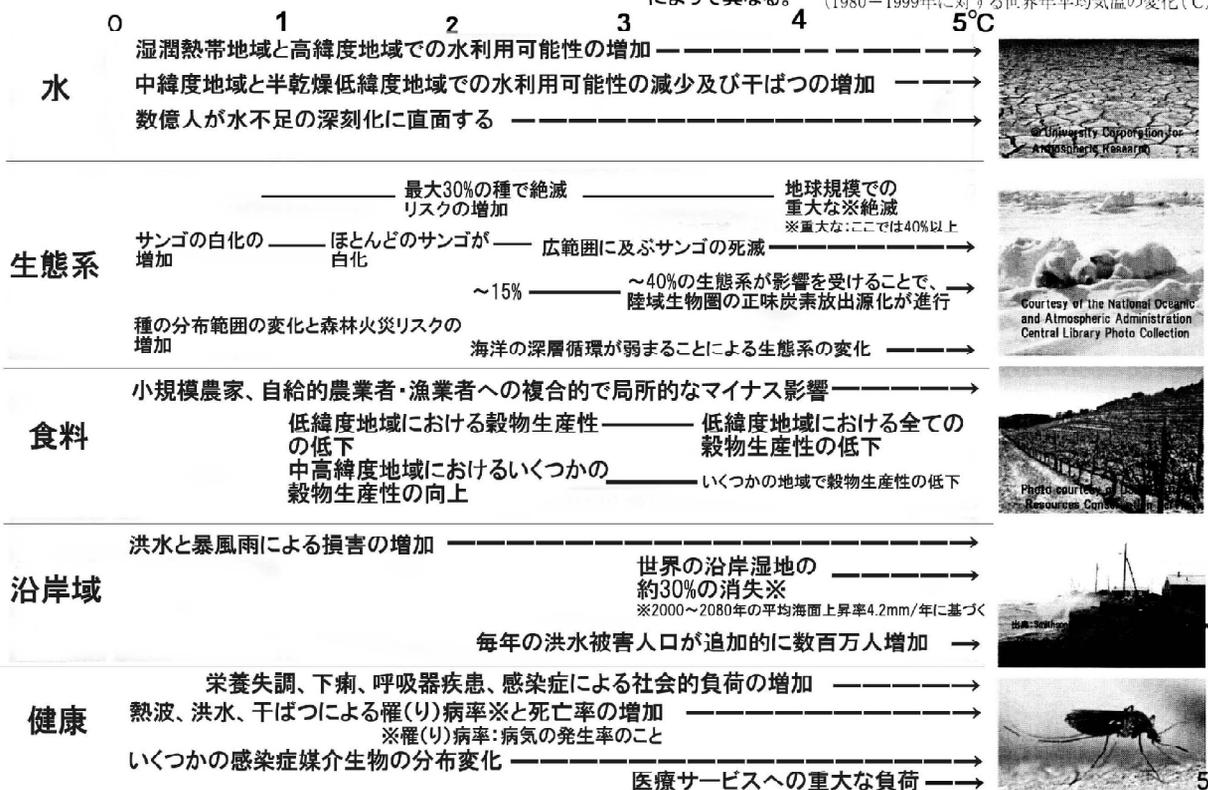
2008年1月10日  
福井県議会政策合同研究会



## 地球温暖化の危機

### 世界平均気温の上昇による主要な影響

影響は、適応の度合いや気温変化の速度、社会経済シナリオによって異なる。(1980-1999年に対する世界年平均気温の変化(°C))



(出典)IPCC 第4次評価報告書第2作業部会報告書

地球温暖化は、異常気象の頻発といった影響を起こすのみならず、生態系への影響、数億人規模の水不足の一層の悪化、農業への打撃、感染症の増加、災害の激化など、私たちの経済・社会活動にさまざまな悪影響が複合的に生じる可能性が指摘されています。

現在、既に、地球温暖化によって水資源や脆弱な生態系などでは悪影響が生じており、今後の気温上昇に従って、より深刻な悪影響が世界のすべての地域で生じることが予測されています。

現状、世界の温室効果ガス排出量は自然界の吸収量の2倍を超過しており、少なくとも今後世界の温室効果ガス濃度が上昇しないよう、安定化するためには、早急に全世界の排出量を半減以下にする必要があります。

しかし、日本では、1990年を基準とした排出量の約8%も増加しているのが現状で、2008年から2012年までに6%削減」という京都議定書で日本に課せられた義務を果たすことが困難になっています。

やむをえず温暖化対策に取り組むといった消極姿勢ではなく、環境立国として世界でリーダーシップを発揮することが、今後の世界の中での日本の位置づけも含め、極めて重要であると思われませんが、残念ながら政治のリーダーシップがないというのが現状です。

### 温暖化対策は待ったなし



海の森づくりを  
 中国政府は、大連沖から福建省沖の一三〇〇kmにわたってコンブの海面養殖を全面的に取り入れた沿岸漁業で大成を収めている。  
 コンブは半年で6メートルに成長し、その量は日本の30倍の年間75万トンを生産

し、海水を浄化し、沿岸漁業の生態系を育んでいる。中国は、この15年間に水産物の水揚げを3倍にのばして、世界一の水産大国にのしあがる一方、日本は2分の1に下降している。  
 この沿岸漁業でとれた魚介類を日本へ輸出して大変な外貨を稼いでいる。  
 海水の浄化度は二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する光合成反応を大きくしており、コンブ養殖を通して、地球環境の生態系に影響している。

このままでは人類はあと100年持たない

## 海の森づくり

CO2を固定化させる  
 コンブの養殖に取り組むべきだ



中国には天然にコンブがなく、専らわが国からの輸入に頼っていたため、第二次世界大戦中、日本統治下の関東州水産試験場に勤務していた大槻洋四郎技師が山東半島において人工採苗によるコンブ養殖に成功し、この高効率高効率の植藻の技術となった。  
 日本でも鹿児島県や長崎県など水温の高い九州地方でも、コンブの養殖など、海の森づくりに取り組んでいる。  
 コンブは、ウニ・アワビの餌としても最高で、小魚の産卵場所ともなり、良い影響をもたらしている。  
 福井県でも漁業活性化のためにも取り組むべきだ。



# クーラーから 緑のカーテンへ



温暖化対策には、環境教育も重要である。

窓辺にアサガオやへちま、ゴーヤなどを植えて日射を防ぐのを「緑のカーテン」と呼んで取り組まれている。

簾よりも省エネ効果が大きいようだ。

教室が暑いからクーラーをつける予算を計上するのと、アサガオやへちまを植えて日射を防ぐのとは、教育哲学上も根本的な違いを感じる。

環境教育の授業時間を設け、これらを実践すべきと考える。学校では、「ゆとり教育」が見直され、総合学習の時間が減る



小学校の総合時間での  
緑のカーテン授業

つした時間の減少を危惧するが、これらについての時間の確保など取組を求めたい。

よつに伺っている。

教科書に「小川のせせらぎ」とか「あせ道」とか言う言葉がでてくると、最近はずいぶん見えたことのないので、先生がいろいろ説明をしなければならず、授業時間が余計に必要なという話も聞くが、農業体験や料理、自然の大切さを学ぶ時間は、極めて重要である。

また、環境を考え、地域やまちづくりの実践を行なう上においても、地産地消はキーワードであるし、食育はファストフードからの脱却を図る上でも、人間性を回復する上でも重要である。

ゆとり教育の見直しによるこ

子どもの体験学習をする上で、宿泊研修なども重要である。

県内には、県立青少年教育施設として、県立青少年センター、奥越高原青少年自然の家、鯖江青年の家、三方青年の家、芦原青年の家の5カ所が設置されている。

このうち芦原青年の家以外の全ては既に建て替えが済んでいるが、芦原青年の家だけは昭和41年の開設以降42年間そのままに放置されており、旧芦原町時代から地元あわら市や多くの利用者などから十数年来の改築要望の陳情が度重ねられているにもかかわらず、極度の老朽化と狭さ未だ解決されていない。

あわら市からも新築用地として市有地を提供する強い熱意が示されているが、未だ県からは何の方向性も打ち出されていない状況のようだ。

私たちは、党派として、先月、坂井地区において、政策懇談会を開催したが、そのおりに、あわら市長より強い要望をお受けした。

9月議会では、福井子ども歴史文化館の整備と、降って湧いたよつな企画と予算付けが簡単になされた。あつという間に予算がつく県都の県施設、長年の要望が無視される都部の県施設

これは県内格差だとの指摘もある。

子どもたちの環境教育、農林水産の体験の場としての芦原青年の家の整備を求める。

また、「福井子ども歴史文化館」予算に絡んで、会派のホームページに「優等生相手もいいが、夜中にコンビニにたむろしたり、公道でスケボーしている子ども達の居場所、話できる場所をつくってやってくれ」という投書もあつた。対応を求める。

石川県の環境評価であるエコアクション21を全国で初めて取得し、環境省から表彰を受けている。

18年度環境負荷軽減実績	
CO2	16.3%
可燃ごみ	44.4%
水道使用量	17.5%

石川県では平成22年までに80校の認定をめざし拡大している。福井県の学校教育でも取り組みを強めるべきだ。

石川県では、ISOなどの認証を受ける費用が百万円を超え高額であることや必要な書類の作成・管理に人手がかかるため、かなりハードルを低くした石川県独自の「いしかわ事業者版環境ISO登録制度」を創設し、環境面での社会的評価をえられる仕組みとして中小企業やNPOでも容易に登録できるように工夫している。

## あわら青年の家を整備すべき

環境と経済を両立させる地産地消のまちづくりが重要である。しかし、善意だけで環境活動の継続は無理がある。市民参加・パートナーシップ型の温暖化対策の推進には、政策の形成義務が課せられたが、数値目標がなく、50%未満の事業者は対象になつていないため、石川県独自で県内のスーパーマーケット等の約7割にあたる12社108店舗とレジ袋削減協定を締結している。

また、スーパーのレジ袋削減協定にも取り組んでいる。

スーパーのレジ袋の年間使用量は30億枚。昨年4月、改正容器包装リサイクル法が施行され、年間50リットル以上の容器包装を使用する事業者に削減計画の策定・報告義務が課せられたが、数値目標がなく、50%未満の事業者は対象になつていないため、石川県独自で県内のスーパーマーケット等の約7割にあたる12社108店舗とレジ袋削減協定を締結している。

福井県の取り組みが遅れている。早急に取り組むべきだ。

「エコアクション21認証・登録制度」とは

広範な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告するための方法として、環境省が策定したエコアクション21ガイドラインに基づき、事業者のための認証・登録制度です。

みんなで止めよう温暖化  
チーム・アワラ255

ECO製品を選んでCO2を減らそう  
消費電力の削減が温暖化防止につながります。環境に配慮した製品を選びましょう。

ECOシミュレーター

このシミュレーションについて

買い替え比較

エアコン 省エネランキング

冷蔵庫 省エネランキング

今お使いの冷蔵庫を選んでください

メーカー名 選択してください

発売年

内容量

使ってみたい冷蔵庫を選んでください

メーカー名 選択してください

内容量

製品名・型番

シミュレーションの方法

左のプルダウンメニューで今お使いの製品と、使ってみたい製品をそれぞれ選んで下のボタンから比較したい項目を選んでクリックしてください。

年間消費電力量を比較

年間電気代を比較

CO2排出量を比較

Copyright © Team-55 committee & Ministry of the Environment. All Rights Reserved.

環境と経済を両立させる地産地消のまちづくりが重要である。しかし、善意だけで環境活動の継続は無理がある。市民参加・パートナーシップ型の温暖化対策の推進には、政策の形成義務が課せられたが、数値目標がなく、50%未満の事業者は対象になつていないため、石川県独自で県内のスーパーマーケット等の約7割にあたる12社108店舗とレジ袋削減協定を締結している。

福井県地球温暖化対策地域推進計画では、太陽光発電設備や太陽熱温水設備などの導入に

対する支援などを通して、省エネ性のすぐれた住宅の普及を推進する「家庭用燃料電池の導入を推進する」家電製品など省エネ型機器の導入をめざす「低公害車購入への支援」とあるが、19年度よりハイブリットカーや太陽光発電設置補助金がなくなつて、直接的な温暖化対策予算がなくなつた。極めて消極的だと思える。これらの補助金の復活や木質ペレットストーブの購入補助など必要である。

家電用品を省エネ型に買い換えれば、電気量の差額で2〜3年でペイできることもいわれており、貸付制度を設け、電気料金の差額で返済するようなことなども啓蒙活動や参加型として考えるべきだ。自然エネルギー設置やCO2削減のための誘導予算を計上すべきと考える。

# 道路特定財源を考える

## ジャパン・パッシングと言われるときに



## 新緑の眼

# 誰がこの国の将来に責任を持つのか

ガソリン税は本来1リットルあたり29円ですが、道路整備を進めるため、25円上乗せされて54円になっています。この上乗せ分が今年3月末で期限切れになります。

期限が切れれば、ガソリン代は安くなる一方、道路特定財源はほぼ半分になります。道路整備のために25円の上乗せを続けるべきだと思いますか。やめるべきだと思いますか。

ガソリン税などの道路特定財源を、道路整備以外の目的にも使える一般財源にするという考え方があります。この考え方に賛成ですか。反対ですか。

ガソリン税の上乗せを続けたうえで、税収の使い道を環境対策にも広げる、という考え方があります。この考え方に賛成ですか。反対ですか。

政府の計画では、今後の10年間で59兆円をかけて全国に道路を整備する予定です。あなたは計画どおり道路整備を進めるべきだと思いますか。計画より減らすべきだと思いますか。

政府は、ガソリン税の税率上乗せを10年間延長することなどを内容とする法案を国会に提出しました。

そのガソリン税の暫定税率を認めるか認めないか、認めれば道路づくりの自民党、認めなければガソリンを安くする民主党、あなたはどちらがいいですか？

果たして、この問題は、そのような二者択一を議論するようなレベルの問題なのでしょうか。

### 道路特定財源の経過

それは、終戦から7年後の昭和27年(1952年)、ガソリンにかけていた税金の収入をすべて道路の整備に使う、という田中角栄議員の議員立法からはじまりました。

あらかじめ税金の使い道を特定する目的税は、財政の原則に反する。政府の予算編成権を奪い、憲法違反、と学者を含めた大論争に発展したようですが、終戦直後道路財源がないため、臨時措置

法として認められました。

自動車専用の道路を作り、料金を徴収し、その料金収入を自動車道路の建設費用に充てていく、という「特別措置法」も同様でした。本格的な高速道路が作られることになった時も、「特別措置」として、高速道路は借金で作る、借金を返すまでは通行料金を取ることにしました。

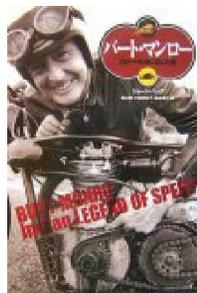
それまでは予算といえ一本であり、最初から使い道の決まった税金はありませんでした。

こうした道路のやり方が、財政に広がり、行き先の決まった特定財源や特別会計があふれ、予算編成で、時の政府が優先順位をつけられないような奇妙な財政の仕組みができました。

臨時措置や特別措置がいつまでも続くことが当たり前になり、そうした、特定の予算の配り方を通じて利権を生じさせています。

### 道路大國、日本

いまや、日本の道路建設への支出は、一般道路と高速道路の合計で年間8兆円余り、11兆円の消費税に迫るもので、その額はドイツ、英国、フランス、イタリア4カ



国の道路予算の合計となつていきます。日本の道路総延長はドイツの5倍、国土面積当たりの道路はOECD諸国でトップ、金額と量では世界有数の道路大國となっています。

それほど道路財源が豊かになつたのなら、本来なら、「臨時措置」や「特別措置」をやめて、多くの欧米諸国のように、ガソリン

税の収入を年金や環境など道路以外に使うことや、高速道路や有料道路を借金で作るのをやめて無料にしようと考えているところですよ。

しかし、日本は、ガソリン税などの税金をさらに引き上げ、そのすべてを道路の建設に回しました。これが臨時措置の上の、暫定税率です。この暫定措置が30年も続いてきて、今国会で焦点になつていきます。

道路特定財源の暫定税率、年間2兆6千億円という金額は、国の教育関係予算の3分の2に相当するほどの金額です。

巨額の財政赤字を抱える今の日本では、年金、医療、教育、子育て、国防、環境、食料やエネルギーの確保など予算が必要な分野はいっぱいあり、道路投資が

ソリンの値下げの二つの選択肢しかないような議論といつのはお粗末です。

「自民党をぶっ壊す」とか、「戦後レジームを変える」とか言いましたが、戦後体制の本丸であるはずの、道路のあり方は変わりませんでした。道路こそが、戦後日本の財政と政治のシステムそのものかもれません。

道路特定財源を地方の一般財源として確保すべし

ところで、これまで特定財源が確保されてきたにもかかわらず、私の周辺の主要な必要道路が整備されていないのはなぜでしょうか。都道府県によっては、随分と道路の整備状況が違います。

石川県と福井県の差を指摘する声も大きいわけですが、道路特定財源は、どのように配分されるのでしょうか。

平たく言えば、誰がどういう判断基準で、道路を作る優先順位や場所を決め、予算額や工事完成までの工期や工事手法を決めるのかということですよ。

ガソリン税を目的税にして建設省(国土交通省)に圧倒的な力を誇った田中角栄さんや、その後の「三田中」さんなど道路族議員がいるような地域には、いくつも

道路が新設され、そうでない福井県は、いくら陳情しても道路ができないというのは問題です。

道路を造れば維持管理費を伴います。道路をつくり続けて国を滅ぼすわけにはいきません。

「道路行政」としてだけでなく、輸送全般として総合的に考えるべきだと思います。

道路を整備することが、産業にどのような直接的効果をもたらす、市民にどのような間接的効果をもたらすのか、また、その予算を道路とは別の事業に用いた時の効果と比較し、優劣判定をして政策が選定されなければなりません。

「道路に限ったことではありませんが、国が財源を持ち、国の権限で判断して、地方の道路の箇所付け場所決めをするから問題が生じます。

道路特定財源を確保し、そのまま地方に配分し、地方の自由裁量で何にでも使えるようにすべきです。中央から地方への税源委譲こそ、投資効果という面からも重要です。

いつの間にかジャパン・パッシング(日本素通り)といわれ、他国から相手にされない日本国となるうとしています。

政治家がリーダーシップを発揮し、抜本的な議論で政策転換をしなければ、一体誰がこの国の将来に責任を持つのでしょうか。

斉藤新緑様

拝啓 余寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

齊藤先生におかれましては、2月議会に向けて代表質問の準備に取りかかっている頃でしょうか。私は、先月、東京に引越し、金融の中心地である兜町に新しい職を得て、忙しい毎日を過ごしております。明けても暮れても政治活動に従事していた日々がはるか昔のように感じられます。

正直言って、こんなに早くお別れすることにならうとは思っていませんでした。県議会は予想以上に快適なところでした。公約通り、一人でも最大野党として孤軍奮闘する覚悟でしたが、齊藤幹事長の辣腕のお陰で、連立与党の一員として歴史的な議会改革のプロセスに参加できたのは誠に幸運でした。また、自然エネルギー促進議員連盟も発足し、次は、自然エネルギー利用促進条例の制定と意気込んでいただけに、もはや環境問題に造詣の深い齊藤先生と政治活動ができませんと思うと、少なからず残念な思いに駆られるのですが、今回、福井市長選挙に出馬したことについて何ら後悔はしていません。

なぜならば今回の福井市長選挙で、県会議員としての残りの任期を全うするよりも、明確

な政治的なメッセージと政治的インパクトを残すことができたと感じているからです。

「この10年間の政治活動の中で、私が一貫して訴えてきたのは、八方塞がりの「この国のかたち」に代わる新しい「この国のかたち」を福井から発信しようという事です。

「これまでの「この国のかたち」とは、東京にお金の移れる人が集まって、そこで稼いだお金を地方にばら撒くというものです。ところが、国と地方を合わせて一千兆円もの借金ができて、これまでのように国から地方に仕送りができなくなっています。

私が提唱する、新しい「この国のかたち」とは、大海に出たサケやマスが子どもを産む頃になると故郷の川に戻るように、都会に武者修行に出かけた子どもたちがスキルを身につけて故郷に戻り、愛する家族や仲間のために力を発揮するよう社会です。国から地方への仕送りを減らすのならば、都会に出稼ぎに行った子供たちを故郷の地方に返して欲しいのです。

「この新しい「この国のかたち」と表裏一体なのが、工業社会から知識社会への転換です。グローバル化が進む中で、知識社会への転換を進めなければその地域はグローバル競争どころか地域間競争でも負けてしまいます。そして、

知識社会への転換に不可欠なのが、都会に武者修行に出かけて知識ワーカーになった子供たちなのです。

工業社会から知識社会への転換を進めるためには、意思決定の方法、言い換えれば、政治や選挙のあり方も変える必要があります。工業社会では特権階級官僚や政治家が資源配分の主導権を握っていますが、投票も重要な資源です。知識社会では特権階級ではない無数の個人の自発的な選択が資源配分の主導権を握ることになります。したがって、工業社会「統制経済」で行われるのが組織型選挙ならば、知識社会「市場経済」で行われるのは草の根ポランテリア選挙です。言い換えれば、組織型選挙を続けている限り、個人の自発的な選択が尊重される知識社会への転換は無理と言えます。

今回の選挙では、依然として、ほとんどの自治会が強制的に対立候補を推薦させられ、回覧板で選挙資料を配布させられたり、多くの企業が社員を無理やりバスや車に乗せて期日前投票に行かせたりする常軌を逸脱した組織型選挙が行われていることが明らかになりました。このような上意下達の選挙のやり方は、北朝鮮やロシアで行われている選挙と何ら変わりありません。

もはや、「勝てば官軍」と手放

して喜べる時代ではありません。時代錯誤の官軍を打ち負かす民軍が育っていないことを悲しむべきなのです。愚民政策とも言うべき、このような愚かな政治や選挙を続けている限り、福井の将来は暗澹たるものになると言わざるを得ません。今回の選挙で、一人でも多くの方が、福井の「この国のかたち」に気がつき、これではいけないと立ち上がる人がいれば、10年間の私の政治活動も無駄ではなかったと言えるでしょう。

私は10年間の政治活動に終止符を打って福井を去りますが、私がこの10年間の政治活動で始めた物語は終わってわけではありませんが、なぜならば、政治活動は人間関係の網の目という環境の中で行われるからであり、こうした環境の中では、一つ一つの反動が一連の反動となり、一つ一つの過程が新しい過程の原因となるからです。つまり、私は物語を始めることができても、物語を完結することはできません。また、残念ながら、私が始めた物語がどのように語られるかを決めることもできないのです。私にできることは、この10年間の政治活動がきっかけとなって、遠くない日に、特権階級の都合ではなく、市民の常識で動く政治が実現し、新しい「この国のかたち」がこの福井の地から発信されることを祈るばかりです。

高木文堂



ご意見、ご質問、メッセージ お待ちしています。



テレビ見ました。

謹啓、寒気いよいよ厳しくなりました頃、お元氣のことと思えます。本日、県議会の中継をTVでみました。素晴らしい質問、たのしく思いました。環境問題は非でも頑張ってください。新緑ホットラインでも知事とのガチンコ……おおいに頑張ってください。応援しています。草々 (あわら市在住)

聞くよりも語るより

近頃学校の図書室の司書先生が居なかったり教師が兼務しているらしい。その結果管理が出来ないという至極当たり前の理由で図書室が開いている時間が限られるというところ。弱い子供やおとなしい子供の避難所は保健室か図書室の先生しかいないという現実を理解してやって欲しい。今の子供達にとって図書室は知識を得る為だけの場所ではない子供達は自分を静かにちゃんと見てくれる人を求めている。子供歴史文化館じゃないでしょう。人にお金かけてほしい。国のために教育があるのではなく教育するために国がある。現状を調べてみてほしい。 (坂井市在住)

新聞読みました。

先日、福井新聞に新緑さんの議会の質問事項が載っていました。読んでみると新緑さんらしいなとうれしさがこみあげてきました。ホットライン11月3日拝読させて頂きました。環境問題の深刻さに言葉を失う程の内容でした。

「承知の通りですが、これからはこれまでの延長では通用しない世の中になります。現在のライフスタイル経済システムを見直す必要があること、ある程度の知識をもっているものは皆感じていることです。私たちが変わる前にロスタイムが終わってしまつのか。福井県は一矢を報いたいと願っています。

新幹線の誘致について一言。財界、政治家、お前らの知恵はその程度なのか？ローマは莫大な維持費で国が傾いたと言われている。在来線を如何に有効に活用するというのが、知恵ある経営者や政治家と違つか。借金があるのを忘れているのか、この欲ばけが……！ お前らみたいなのが、地球を滅ぼすや。もっと有効に使え。

(福井市在住)

最後に、自民党新政会と他の方々早速のすばらしい実績つれしく思います。県政の大きな一歩ですね。新緑さんとともに、ガンバッテ……！

# 新緑の気ままにトク

白骨の章

蓮如上人

それ、人間の浮生なる相をつらつら観するに、凡そはかなきものはこの世の、始中終幻の如くなる一期なり。

されば未だ万歳の人身を受けたりという事を聞かず。一生過ぎ易し。今に至りて、誰か百年の形体を保つべきや。

我や先、人や先、今日とも知らず、明日とも知らず、おくれ先だつ人は、本の雲・末の露よりも繁しといえり。

されば、朝には紅顔ありて、夕には白骨となる身なり。既に無常の風来りぬれば、すなわち二の眼たちまちに閉じ、一の息ながく絶えぬれば、紅顔むなく変じて桃李の装を失いぬるときは、六親・眷属集りて歎き悲しめども、更にその甲斐あるべからず。

さてしもあるべき事ならねばとて、野外に送りて夜半の煙と為し果てぬれば、ただ白骨のみぞ残れり。

あわれというも中々おろかななり。されば、人間のはかなき事は老少不定のさかいなれば、誰の人も、はやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深くたのみまいらせて、念仏申すべきものなり。

(御文章五帖目十六通)

ネズミと聞いて、思ったのは、黒と白の二匹のネズミの話。

一人の旅人が広野を歩いていきますと、突如どこから現れたか、群れを離れ凶暴と化した象が、旅人を見つ、襲いかかる。旅人は驚いて一目散に逃げました。幸い古井戸があり、その中に一筋のふじ蔓が垂れ下がっていました。

天の助けと彼はふじ蔓につたわって井戸の中へ隠れました。狂った象は牙をむいて井戸の中をのぞき込みますが、中まで入ってこれません。一安心して下の方を見ますと、恐ろしいことに、その井戸の底には大蛇が大きな口をあけて、旅人の落ちて来るのを待ち受けていました。

上へも登れず、下へも降りられず。絶体絶命、命の綱はふじ蔓一本です。ところが、そのふじ蔓の根元のところでガリガリという音がしています。

よく見ると、横穴から一匹の白鼠が顔を出して、ふじ蔓をかじっています。白鼠が穴に引っこみ、入れ代わりには黒鼠が顔を出してかじっています。

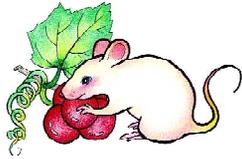
「もつ駄目だ。助からない」と天を仰いで嘆息していると、ポタリポタリと甘い蜜が五滴も口の中に入ってきました。ふじ蔓の根元に蜜蜂の巣があつて、そこから甘い蜂蜜が垂れてきたのです。旅人はその蜜の甘さ

に、しばし恐怖を忘れてしまっていました。

この旅人とは、人生の旅をしている私共のことです。狂った象とは時間の流れ、無常のこと。私共は毎日時間に追われて暮らしているが、人生の時間は限られている。

井戸の底の大蛇は死の影、私共を待ち構えているのです。一本のふじ蔓とは命の根、即ち自分の寿命です。

その寿命の根をかじっている白と黒の鼠は、昼と夜のこと。昼がきて、夜がきて、私共の命は一日一日と縮まっていきます。



五滴の蜂蜜とは五欲のことです。食欲、色欲、睡眠欲、名譽欲、財欲つまり目の前の官能的な欲望です。

人生の無常を感じながらも、金銭や財物、性欲や名譽地位の欲望に迷っていると、さまざまな罪業を造るばかりで、一生は空しく終わってしまいます。

これは、その警鐘を鳴らす意味で説かれた仏教のたとえ話です。(仏説譬喻経、黒白二鼠)

日常の雑事に取り紛れ、自分が何のために生きているのか、人生を何に使つたかを考えずに忙しく過ごす

ことよって、自ら人生を縮めている。そのような人生の空費は「怠惰な多忙」、その「多忙」こそが人生を短くする真の原因だとセネカは説くのです。

エラスムスルネサンス期のオランダの人文主義者という人の言葉に、「人間として生きるつもりなら、賢い人か持つべきでない」といつのがある。

人間は賢くなればなるほど、この世の愚かしさが、はつきり見えてきて、どうにも憂鬱にならざるを得ない。だから、楽しく生きようと思つたら、愚かさこそが救いの神。それほど、いつの世にも人間は愚行を繰り返してきたし、いまも繰り返している。

その最たるものが戦争だろう。あるいは、あくことのない権力欲、名譽欲、金銭欲、こうした欲望が、どれほど人間を愚かな行為に駆り立てることがある。

行き着いた先は、自分(人間)を壊し、自分の住む家(地球)さえも壊すことになった。それでもまだ、欲望を肥大化させ、軌道修正できないでいるのを見ると、まさに「あわれ」といふもなかなか愚かなり。



「5分が一生に勝る」

ニューヨーク南端の片田舎に住むバート・マンローは、年金生活の貧乏な老人だった。

くす鉄や台用品を使い、53年に製造中止されたインディアン・モーターサイクルを日々改良していった。彼の夢はこのポンコツで、世界最速の男になること。

そして、68歳にして今も続く1000cc以下のオートバイ陸上速度記録を達成し、伝説のライダーとなった。

映画「世界最速のインディアン」は、68歳にして夢をかなえた男の記録樹立までの奮闘が描かれたものである。

アンソニー・ホプキンスの演じるマンローのセリフ「一言二言が味があつて重みがある。特に隣人の少年トムとの会話がよい。

「5分が一生に勝る」は、トムがマンローに事故に対する不安はないかと質問した時の答え、いいや怖くないね。こういうマシンでスピードに挑む時は5分が一生に勝る。

「夢を追わない人間は野菜と同じ」。顔にしわがあつても心は



二寒四温の四温が待たれます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

まだ18歳だ。危険が人生に味をつける。リスクを恐れてはいかん。それが生きるって事だ。ボクシングを見る奴はいらん。ことを言つてリングで戦つてる奴を褒める」

年明けに、明治維新胎動の地、山口県秋市を訪れた。

「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し」、雷電風雨の高杉晋作の空気を胸いっぱい吸い込んできた。

「矢面に立つ」という言葉を噛み締める時もあるが、志士たちが命がけて挑んだ精神とは比較にならない。

晋作は百花に先駆けて咲く梅を最も好んだようで、谷梅之助といふ愛名も持つ。

「梅一輪、一輪ほどの暖かさ」、数年前にホームセンターで買った鉢植えの梅が、庭ではじめて枝に赤いつぼみをつけているの見える。

水に映る月も、衣にしみこむ香りも自分があるがままに、ほじけている。から、それらと同化できるといいます。大事なことは、ほじけていくこと。

「春は名のみの風の寒さや谷の鶯。歌は思えど時にあらずと声も立てず」

二寒四温の四温が待たれます。